

モノの豊かさより 心の豊かさ

② 若葉台おやじの会

ホームページアドレス： <http://www.non-t.net/watch-dog/>

身近なものから

鳥取市の最南端に位置する若葉台地区。ここ数年の宅地

造成に伴い、新興住宅地として開発された地域であり、鳥取環境大学や鳥取市が誘致した企業なども多数立地している。また、その周りには緑豊かな里山、田園がまだ残されており、野鳥や昆虫の宝庫でもある。

平成十四年七月、この地区に、地域の中心が中心



堀田さん（左）と下地さん（右）

となつて一つのグループができた。「若葉台おやじの会」(代表・下地正之さん 若葉台南六丁目)だ。

会の発足は、若葉台のおやじたち四十人が子どもたちを車から守ろうと、地域内の道路に足形のストップマークをつける作業をしたことがきっかけ。地域のおやじたちが集まって「あーだ、こーだ」と言いながら、一緒に力をあわせて身近な問題を解決してゆくことが、子どもたちや地域住民とのコミュニケーションづくりの場となっている。



遊びを通じた交流

この会では、遊びを通じた親子のふれあい、地域住民とのつながりを目的に、環境、科学、交流をテーマに、さまざまな活動を行っている。今年の夏、テーマの一つで

ある環境についての活動では、若葉台小学校の校庭にピオトープ(野生生物の成育場所)の生態を観察できる池を会員と地域の子どもの手で作成させた。

「今の子どもたちは、実際にアメンボやメダカが泳いでいるところを見たことがない。メダカなどの生き物を間近に観察できることに子どもたちは大喜びですよ」と会の世話人の一人である堀田利明さん(若葉台南二丁目)はうれしそうに語った。

そのほか、近くの大池での野鳥観察や正月の門松づくり、花壇づくり、若葉台科学おもしろ館など活動の範囲は広がっている。おやじたちは、今、子どもたちと一緒に楽しく遊べる企画づくりに熱中だ。



おやじの背中

子どもたちは、忙しい仕事の中、暇を見つけては地域の活動と一緒に遊んでくれる父親の姿を見て、「お父さんはすごい」と口々に話すという。「地域にいろんな動植物が



子どもたちといっしょにピオトープづくり

いることを教えてくれ、一緒になつて遊んでくれる父親を頼もしく思っているんですね。子どもたちもモノの豊かさより心の豊かさを求めているんですよ」とくすぐったそうに語る下地さんと堀田さん。「子どもたちには、鳥取の貴重な自然を次の世代に大切に残していくこと、人と人とのつながりを大切にしていくことを学ばせたい」と、おやじの会を代表して語る二人に、子どもたちに体を張って大切なことを伝えてゆきたいと強く思うおやじの気持ち伝わってきた。彼らの活動が今後も続き限り、子どもたちの未来も明るい。がんばれ、おやじたち。